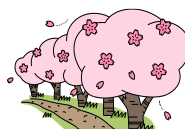




学校教育目標

西陵だより

「開拓」創造・協力・根気・健康



学校だより

No. 6

令和7年3月25日
札幌市立西陵中学校

別れと旅立ちの季節に思う

校長 横川 広志

うらかな日差しに春の訪れを感じる今日この頃、学校は別れと巣立ちの季節を迎えました。去る3月14日に行われた第51回卒業証書授与式において、希望を胸に133名の卒業生が堂々と胸を張って本校を卒業していきました。卒業式式辞では、卒業生への贈る言葉であると同時に1, 2年生の皆さんにも1年後、2年後に迫った巣立ちのとき、その喜びと厳しさを感じてほしいという願いを込めて以下のようなお話をさせていただきました。

(第51回卒業証書授与式 式辞より)

— 冒頭の挨拶略 —

さて、みなさんにとっての中学校生活三年間はどのようなものでしたか。「楽しかったこと、辛かったこと」「嬉しかったこと、悲しかったこと」「やり切ったこと、後悔の残ったこと」様々な思いが錯綜していると思います。ただ、間違いなく言えることは、そのような思いを通して皆さん一人一人が確実に成長していったことです。私が着任してからの一年間を振り返っても、皆さんは常に最高学年に相応しい、完成度の高い、そして、心のこもった活躍を見せてくれました。修学旅行では、東北地方を訪れ、民泊という初めての体験をしました。最初は不安そうな表情も見えましたが、みなさんの飾らない人なつっこい雰囲気はどこに行っても愛されますから、すぐに現地の方とも親しくなり、いつも以上に明るい笑顔を見せ、体験を通して多くのことを学んでいたのがとても印象的でした。みなさんの心のこもった挨拶や態度、素朴で素直な受け答えは行く先々でお褒めの言葉をいただき大変誇らしく思いました。西陵祭の活躍にも目を見張るものがありました。表現力溢れるステージや完成度の高い装飾で生き生きと最上級生らしさを発揮していました。また、後輩たちの発表を鑑賞する姿勢も素晴らしく、緊張する後輩たちの発表を温かく見守り、ミスがあっても決してざわつかずに緊張感を保ち、面白い場面では大いに笑い、歌や演奏、ダンスやアクションのシーンでは拍手や手拍子を交えて大いに盛り上がる、そんな皆さんは本当に素敵でした。会場を包むその一体感に「最高の演劇は観客が創る」という言葉を改めて感じさせられました。合唱コンクールでの力強く美しい歌声は順位などに関係なく、どの学級も大変素晴らしく、また、感動的でした。皆さんは、どんなときでも心が感じられるのが最高です。みなさんは、本当に優しく、思いやりがあり、人懐っこくて人間味にあふれています。何事もしっかり心で受け止めて行動する素直さや仲間と声をかけ合い集団を高める力、熱く燃える情熱、それは、今後どこに行ってもみなさんを支える大きな力となることでしょう。この宝物のような経験を通してえた力を糧に、明日から皆さんは、それぞれの違った道を歩き始めることとなります。現代は多様性の時代、変化の激しい時代といわれ始めて既に十数年が経ちます。その傾向は、ますます加速し、ここ十数年の間に多様な個性が認められるように社会が大きく変

化してきました。その時代に生きるみなさんは、好きなことを学び、夢を追いかけ、なりたい自分になることができる自由と可能性に満ちています。自分の求めるものを何処までも追いつける生き方は素晴らしいものです。ただ、それと同時に楽しいばかりではなく、厳しさも伴うという現実も受け止めなければなりません。みなさんの魅力である優しさ、素直さや真っ直ぐな情熱に加えて 強い心も必要です。簡単には折れることのない しなやかな心の強さ、熱く燃えあがる炎のような情熱と同時に、ずっと燃え続ける炭火のような情熱を心に秘めた粘り強さも必要です。私たち西陵中学校の学校目標は「開拓」です。これからみなさんが歩む未来は未開の大地のようなものです。自分の夢や希望の花を咲かせるために、どんなに荒れた土地であっても自分の足元を耕すことから始めてみましょう。四月から皆さん全員、大きく環境が変わりますが3つのことを意識してほしいと思います。第一に「自分から環境を作る」ということです。新しい環境が皆さん一人一人の個性に合わせて用意されていることなど期待してはいけません。自分自身で新しい環境を作っていくという心構えが必要です。環境を作るといって大それたことに思えますが、小さなことから、できることからでよいのです。新しく出逢う人、新しく使うもの、新しく自分が生活する環境に対して、好き嫌いの感情で判断することなく、まずは、その人、そのもの、その環境を自分自身から大切にすることから第一歩を踏み出しましょう。第二に「思い通りに行かない時こそ成長のチャンス」と受け止めましょう。どんなに好きなことにも、必ず嫌なことは含まれているものです。望んで入った学校、憧れの学校であったとしても、必ず期待外れのこと、嫌なこと、苦手なことも含まれているものです。上手くいかないこととどう付き合うかが人生の醍醐味です。そんな時は顔をしかめて舌打ちをするのではなく、人間力アップのチャンスと笑顔で受け止めて乗り越えましょう。第三に「どんな人間になりたいか、どんな人間でありたいかを考え抜いてほしい」ということです。初めての進路選択をし、十五の春を迎えたばかりの皆さんですが、あっという間に次の進路を考えるときが来るのです。おそらく、そのときには、さらに社会の情報化が進み、多くの情報が皆さんの周りに溢れていることでしょう。しかし、選べる自由の中で選ぶことばかりに翻弄されて、自分の頭で考えることを忘れないように！つまり、「どこに進学するか、どこに就職にするとか・・・」選ぶことばかりに夢中にならずに、どんなふう生きるか、どんな人間でありたいかを考え追求することを忘れないということです。将来の夢を尋ねると「なりたい職業」を答える人が多いと思いますが、それ以上に「どんな人間になりたいか」という夢や目標も胸に刻んでおきましょう。職業は辞めたり、変わったりすることはできても、あなたという人間であることを辞めることはできません。三つお話をしました。何事も自分の足元からです新しい環境では、まず自分から人・もの・環境を大切にすること。好きなことの中にも必ず嫌なこともあり、それをチャンスと受け止めることで成長できること。何になるかばかり考えるのではなく、どんな人間になるかということも見失わないこと。これからの人生において、どのような逆境にあっても、「開拓の精神」を胸に逞しく歩み続ける、皆さんの健闘を心から祈っています。

— 結びの挨拶略 —

本日、3月25日の修了式をもちまして、令和6年度の西陵中学校の教育活動が概ね終了いたしました。保護者の皆様、地域の皆様、今年一年間、本校の教育活動に対して深いご理解と、心温まるご支援をいただきましたことに、心より感謝申し上げます御挨拶とさせていただきます。